OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	和紙造形 : わたしの軌跡
Author(s)	伊部, 京子
Citation	デザイン理論. 1984, 23, p. 60-66
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52679
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

誌上発表

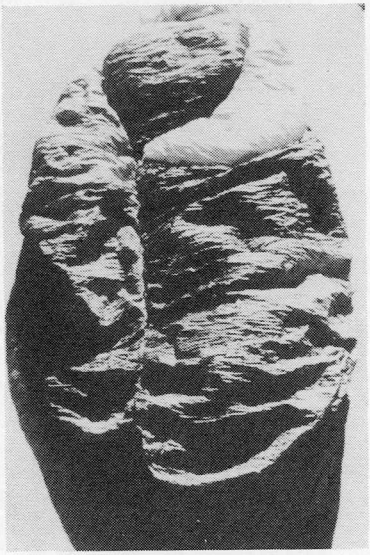
和紙造形　—わたしの軌跡—

伊部京子

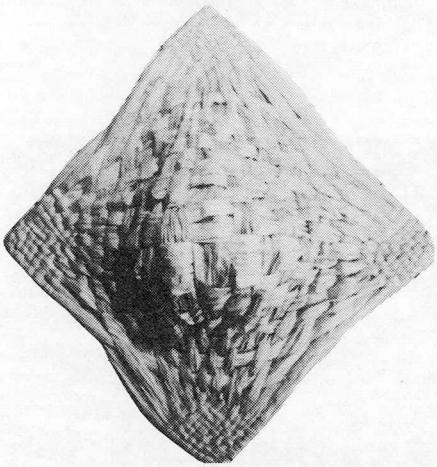
和紙を好んで手にするようになったのは60年代の終り頃である。当時はただ好きで趣味的に自分の使うものをつくていっただけで、今では写真がわずかに残っているだけだ。そうして自然に親しんだ数年を過した後、和紙を自分の創作の素材と決めて準備を重ね、最初の個展を開いたのが74年である。今もあきずに続けているのだが、和紙のおかれているつくり手側の事情と、受け手の側の状況もかなり変ってきた。その渦中にあって体験してきた様々な変化を私の作品は物語ってくれるに違いない。当初からつくり続けているものも少しはあるが、一回限りのものもあり、それらは衣と住の全般に及んでいる。

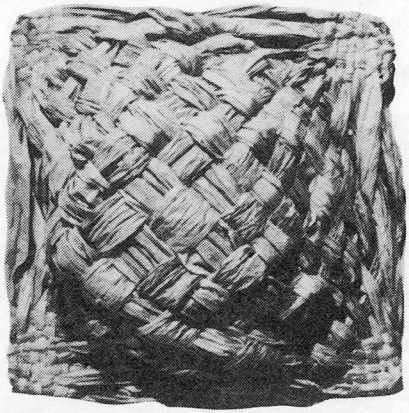
1974年、最初の個展を準備しながら、私は自分の仕事のコンセプトを言葉にしていった。それは10年以上たった今日も、変らず私の仕事を方向ずけている。第一回の個展はテーマ別に二つの会場で同時に開催した。一つは「和紙とかたち」、今一つは「和紙とくらし」である。前者は和紙をファインアートの素材として扱うアートの領域の仕事である。後者は和紙を日常生活空間の中で活かしてゆく試み——デザインの領域の仕事である。この二つはそう明瞭に区別されるものでもないし、混然として唯『我つくる、故に我あり』という心境になってしまうこともある。唯、和紙の歴史とあり様を世界的な視野に立って見た時、紙を暮らしの中で豊かに使いこなしてきた世界に類を見ない特殊な紙文化の流れは、激しい文化の様変りの中に消してしまってはいけないと痛感する。それと同時に、近代造形の素材としては、今や世界の注目を集めはじめている。先に社会の状況が変ったと云ったのはそのへんの事情である。状況はまさに動き出している。その中で誰もが認めるこのすぐれた素材が次の世紀にどう位置ずけられるかが私の最大の関心事である。

以下これまで、作品のなかから幾つかのご紹介させていただきます。いずれも立体の色彩豊かなものばかりで、特に和紙のもつテクスチャーと、スケールが表現が出来ないのが残念です。

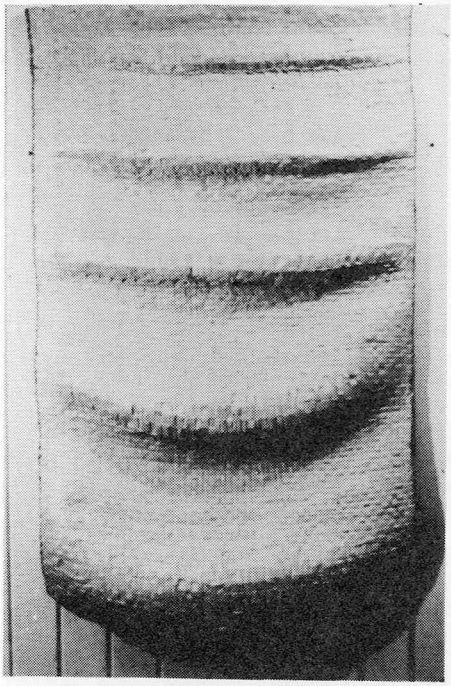


"No Titile" 無題 150×80×30(cm) 1974年 左
ギャラリー射手座（京都）での個展の作品
"No Titile" 無題 150×66×25(cm) 1974年・右
レリーフ状のWall hanging 和紙を樹脂で固めて曲面をつくる

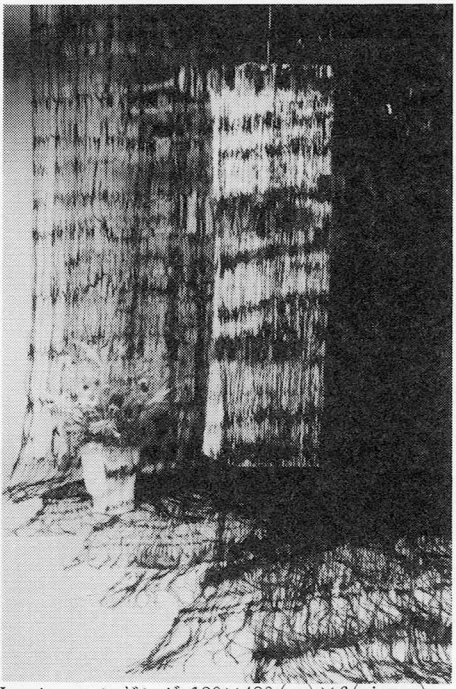




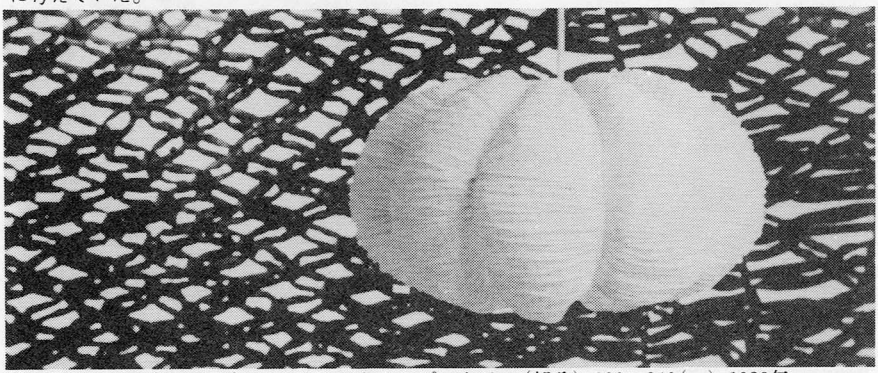
"No Titile" 無題 45×45×15(cm) 1978年・左　ギャラリー紅（京都）
"No Titile" 30×30×10(cm) 1978年・右
布と紙の違いに興味をもち、漉いてつくる。紙を織ったら何が可能なのかを要求してつくった立体レリーフ状のオブジェ。



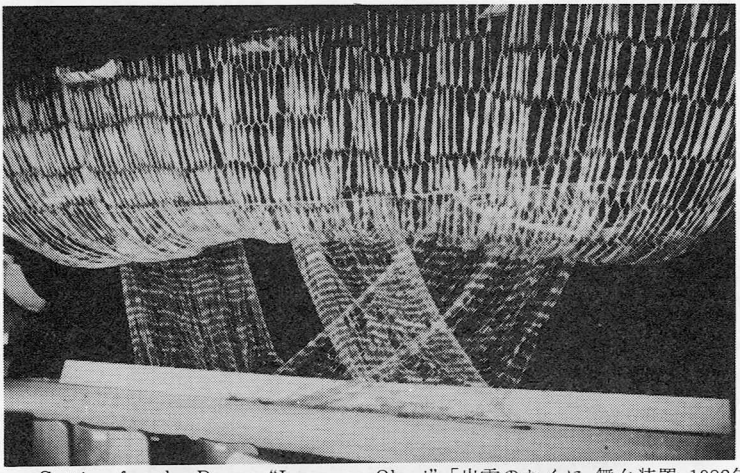
"No Titile" 無題 90×180(cm) 1978年
ギャラリー紅（京都）
一枚の紙がむくむくとはらんでいくようなイリュージュンにとりつかれてつくった作品。この頃和紙って何だろうとしきりに考えていた。



Hanging ハンギング 180×480(cm)×6(pieces)
Lighting Object ライティング・オブジェ
45×45×180(cm) 1981年
K電機ショールームのためのオブジェ(サンフランシスコ)

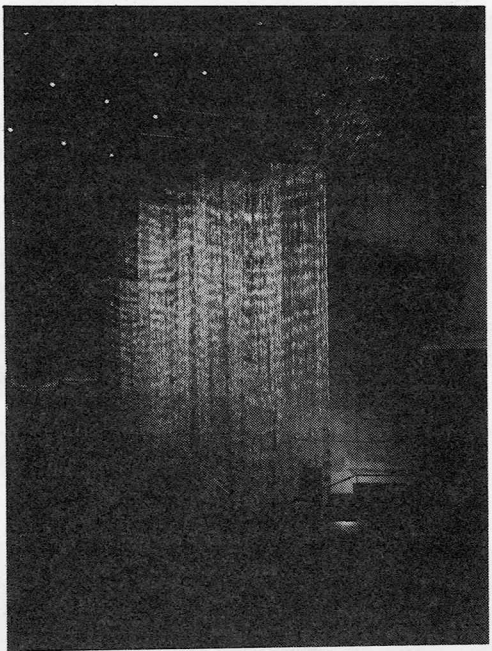


Wall Hanging (Part of) マクラメによるタピストリー(部分) 180×240(cm) 1980年
Lighting Object ライティング・オブジェ 45(cm) 1980年　小田急ハルクギャラリー
漉いてつくられる紙を布の技術である織にからめてその本性を明らかにしたいという試み

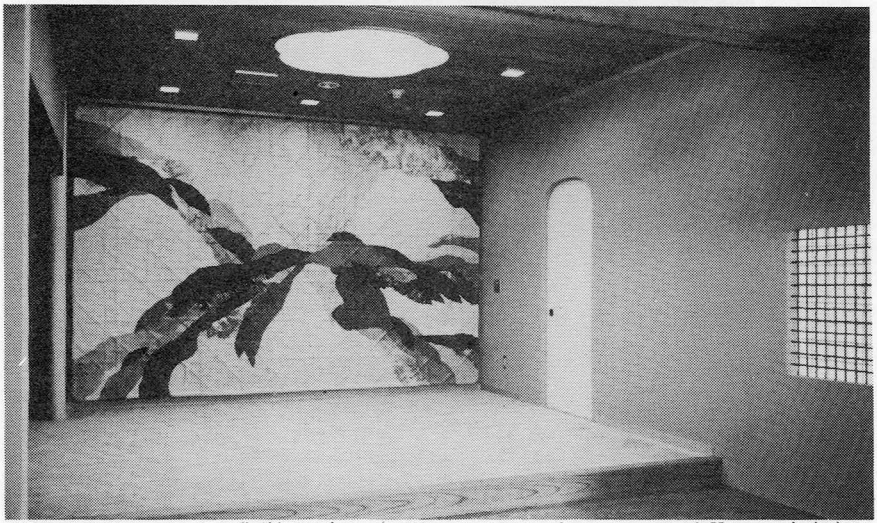


Stage Setting for the Drama "Izumo no Okuni"「出雲のおくに」舞台装置 1982年
（京都府立芸術会館　天井部分 100㎡ バック6×2m 6pieces
舞台は光の効果が最大限に働く場である。そこで和紙がいかに生かされるか試みた。

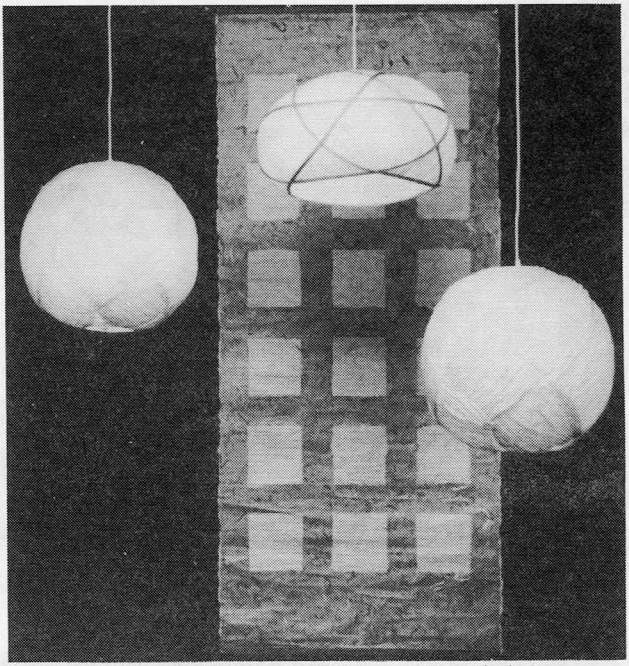
"Wind has seen." 150×150×480(cm) 1982年　現代紙の造形「日本と韓国」展出品作
（大阪芸術大学塚本記念館にて）



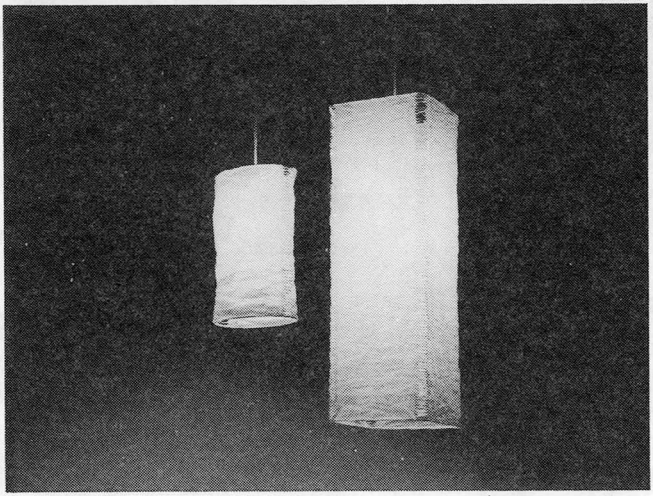
"Red Wings" 1000×240×700(cm) 1984年 International contempanary paper Ait W Worki Enhihition. サクサイ美術館(カナダ・ケベック州) 出品作品



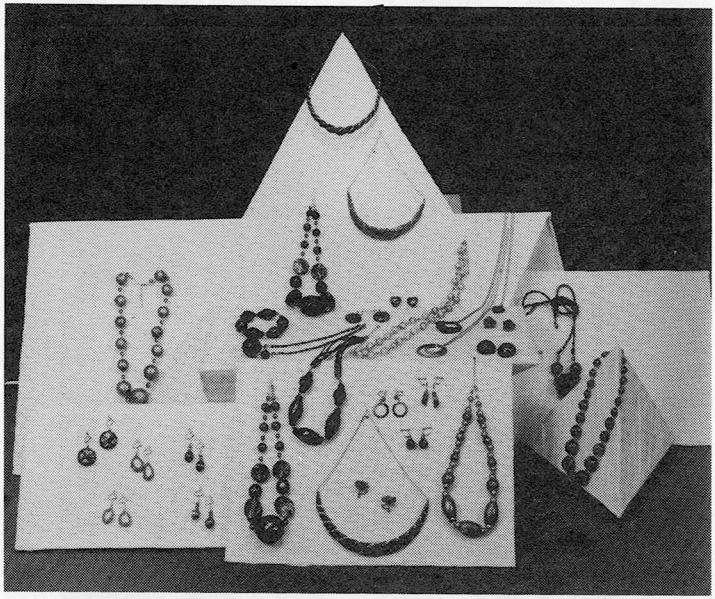
"Small Islands in Seto" 瀬戸の島々 (wall painting in the entrance of Kinuya きぬやの正面壁画) 240×360(cm) 1983年 コンクリート和風建築の中での和紙による装飾の試み



Lamp Series(Mitsubishi) あかりシリーズ(三菱) app.55×30(cm)。
Wall Hanging 壁掛け 90×210(cm) 1979年　同時に発売した8タイプのうちの二タイプ。



Lamp Series (YAMAGIWA) 阿波シリーズ(ヤマギワ) 1983年
光源と目の間に一枚スクリーンを置くとすれば和紙がいちばん美しい、というのが私の持論である。1974年以来あかりは私の一生テーマとして折にふれ試みている。



Accessories アクセサリーシリーズ 1984年
和紙のもつ軽さと加工のしやすさを生かしたアクセサリーのシリーズ。

Interior Goods and Table Ware インテリアの小物とテーブルウェアーシリーズ 1984年
1974年から作り続けているクラフトワークの数々。